

すまくちいきじりつしえんきょうぎかいつうしん 須磨区地域自立支援協議会通信

No. 9

発行元：すま障害者地域生活支援センター

連絡先：〒654-0154

神戸市須磨区中落合2丁目 2-8

ワコーレ須磨名谷ステーションマークス 1階

☎ 078-795-1453

FAX 078-795-1454

編集者：特定非営利活動法人ほっとぽっと 蔵元志穂

目次

1 ページ・・・須磨区地域自立支援協議会 会長 池内 正

2, 3 ページ・・・各部会活動内容報告

4 ページ・・・各部会活動内容報告 続き

しいちゃんのおじゃましまんにやわ～☆

編集後記



池内 正 会長のごあいさつ

平成23年9月16日

～ 神戸市バリアフリー現地踏査員として ～

暑さ寒さも彼岸までと申しますが、今年も残暑が大変厳しい日が続いています。日頃は、当協議会の事業にご理解とご協力を賜り誠に有難う御座います。今年も、東日本大震災を始め台風12号による和歌山県、奈良県の自然災害は想像を大きく上回る甚大な被害となりました。一日も早い復旧、復興を心より願うばかりです。

さて、神戸市では「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進」のためのバリアフリー基本構想(仮称)の策定に取り組んでいます。障壁のない都市づくり、障害者のためだけに適用されるのではなく、広く市民の社会全体の質的向上を図ることが、障害者の社会参加を後押しする第一歩であると思います。今年、須磨区の中で現地踏査する場所は、山陽板宿駅、地下鉄板宿駅、新・須磨区役所、妙法寺川公園付近です。予算の関係で、全ての要望や指摘に対応するためには時間も必要ですが、今後も皆様のご意見をお伝えし安全で住みよい須磨区にしていきましょう。ハード面でのバリアは金銭で取り除けますが、心のバリアはお金では買えません。誰にも話せない、話す場がない人もおられます。自立支援協議会では心のバリアを無くするための場として、皆様と話し合い少しでも前進出来たらと思っています。

全体会／6月9日

須磨パティオ健康館3階のパティオホールにて、平成23年度須磨区地域自立支援協議会全体会を開催致しました。当日は協議会構成51団体の内31団体、48名の参加となり、平成22年度の活動報告、さらに平成23年度の組織及び活動報告を行うと共に、参加された皆さまとの意見交換等を行いました。

平成23年度も引き続き、6プロジェクトで活動を行っていきます。各プロジェクトのねらいに向けて、自立支援協議会だからこそ取り組める活動を進めていきたいと思えます。



第4回 離宮公園合同清掃会／6月24日



就労支援部会 就労支援

今回も総勢55名のメンバーで合同清掃会を行いました。その週は天候が不順でしたが、当日は晴天となり参加者は、「暑いねー!!」と繰り返しながらも、本園内の清掃を行いました。清掃後、ボランティアの皆さんが作って下さった「かき氷」が好評で、一般の来園者の方からも「売って下さい!!」と声がかかる程でした。又、当日は神戸新聞(翌日掲載)とJ:COM(翌週から1週間放映)の取材を受けました。掲載された新聞やケーブルテレビの放映を、見て頂いたかもしれませんね。

事例検討会「彼が欲しい！でも知り合うところがない。だから・・・」／6月29日

今年度は事例検討会を「まなぼー!!」プロジェクトで行なっていく事となり、初回は「友が丘作業所」に事例提供して頂きました。当日の参加者23名が、ファシリテーターより事例検討会のポイント(①自分が発表者だったという視点で考える。②質問や提案は出来るだけ具体的で、「これならやれそう!」と思えるものを。



地域生活支援部会 まなぼー!!

③皆で発表者を応援しよう!)のレクチャーを受け、4グループに分かれて検討を行いました。参加者が全員、意見を述べると共に、事例提供者が元気になれる、事例検討会となりました。

事例検討会「病気と向き合いながら、日常生活と仕事の両立を!!」／7月15日



就労支援部会 就労支援

「まなぼー!!」プロジェクトと同様に、「就労支援」プロジェクトも定期的に事例検討会を行うこととなり、初回は「スタジオ神戸」に事例提供して頂きました。参加者は14名でしたが、「まなぼー!!」の事例検討会同様に色々な意見が出されました。さらに今回は、事例検討会の前に施設見学を行いました。参加者の皆さんは、他事業所をじっくり見学出来る機会となり、大変喜んでおられました。

勉強会「地域ケアマネジメントの展開：個別支援会議から地域社会の問題へ」

／7月20日



地域生活支援部会「まなぼー!!」

関西学院大学人間福祉学部社会福祉学科の池埜聡教授に、地域自立支援協議会についての講演をお願いしました。当日は17名の参加で、個別支援会議から抽出した課題を、地域自立支援協議会に挙げる際に、「権利擁護(アドボカシー)」の視点の重要さや、視点の持つためのポイント等を、具体的な例を提示しながら教えて頂きました。参加者の

皆さんからは、少し内容が難しかったとの意見もありましたが、地域自立支援協会への理解がより深まったという声も多く、アドボカシーを実行するために、行政と「対立」するのではなく「協働」で進めることの大切さを、改めて意識する機会となりました。

市民救命士講習会／7月25日

今年度は須磨救急ボランティアグループに依頼し、市民救命士講習会を須磨区民センターにて開催しました。

当日は17名の参加者が2グループに分かれ、応急手当の重要性をDVDで視聴後、AEDを用いた心肺蘇生法、小児・乳児・新生児に対しての心肺蘇生法、異物除去(成人・乳児・新生児)等の実技を体験し、参加された皆さんは、市民救命士講習会の修了証を習得されました。



地域生活支援部会「まなぼー!!」



発達的气になる小学生とその家族のための支援教室／8月7日



地域生活支援部会「親子プロジェクト」

神戸大学保健学科の主催で、今年で第3回目となる夏休み期間のイベントをともに開催しました。保護者の方に参加頂く講演会では、ライフステージをつなぐ支援・学びにおける支援・日常生活での支援について学びました。一方、子どもプログラム(託児)では40名程の学生ボランティアの方が、子どもたちと目一杯からだを動かしました。発達障害のある子ども

とその保護者の支援の必要性は高いですが、適切に学ぶことのできる場は少ない状況です。しかし、学生主体で行っているこのイベントは、継続していくための課題も多く、今後大学側と検討していく必要があります。



地域生活支援部会「親子プロジェクト」

親子プロジェクトでは、発達障がいのある就学後の子どもと保護者の支援をひとつの目的として活動しています。「親子で参加できる身体を動かす時間が欲しい」というニーズがあることから、音楽活動を通して親子でじっくり過ごすイベントを開催することにしました。「広報こうべ」への掲載により、地域の小学校に通う方が多く参加してください、これまで支援センターとも関わりのなかった方たち

とつながるきっかけにもなりました。ひと時ではありましたが、親子・スタッフともに大笑いして楽しむ時間となりました。このような参加しやすいきっかけを作ることから、次に必要なことを考えていきたいと思います。

☆ しいちゃんのおじゃましまんにゃわ～ ☆

何をしていても楽しいと語る、友が丘作業所職員 大西友緒さん

今回は、友が丘作業所の職員 大西友緒さんにインタビューさせていただきました。

しい こんにちは。今日はよろしくお願い致します。さっそくですが、友が丘作業所で大西さんは普段どんなことをされていますか？

大西さん 何でもします。さをり織りもしますし、ケーキ作りも。お昼ご飯もみんなで調理しているので一緒に作っています。

しい そうなんですね、なんでもできないとだめですよ～。そのお仕事の中で大西さん自身が楽しい事ってなんですか？

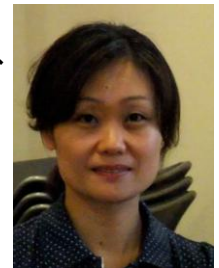
大西さん そうですね～・・・何をしていても楽しいですね。毎日の出来事が違うから飽きないです。

しい 逆に大変なことはどんなことですか？

大西さん 色んなことをしているので負担はあるけど、その分やりがいがあります。

しい やりがいを感じられるって素敵なことですね。今日はありがとうございました。

大西さん ありがとうございました。



落ち着いた雰囲気の大西さん。笑顔で「何をしていても楽しいですね。毎日の出来事が違うから」とお話しされたことがすごく心に残っています。



編集後記 皆様、まだまだ残暑厳し日が続いておりますがいかがお過ごしですか。今回の地域自立支援協議会通信ですが、編集者の私が体調を少し崩してしまったため編集が遅れてしまいました。申し訳ありません。体調管理の大切さをつくづく実感しております。皆様もご自愛くださいね。